

# 日本のストリートファッションのギャル文化

コスパン・パッタヤー

## 0. はじめに

ギャル文化は、学生中心の若者の集団の中で、日本のストリートファッションの一つであるギャルファッションを主なグループのアイデンティティとして成立し、次世代に格好、生活、活動、価値観など継承してきたということで文化と呼ばれている。ギャル文化は、日本のストリートファッションの中では、悪っぽく、目立つ格好に対する系統意識が最も強いと考えられる。また、ギャルファッションの強さがエスカレートされ、一時は大ブームであったが、現在までスタイルが少しずつ変わりながら続いている。

こういったギャル文化はバブル経済期頃に連帯感の強い日本社会で発生し、反社会的なものだと認識された。他の若者文化と比較すればギャル文化はかなり悪い評価を受け、抵抗を受けた事例が数多く見つかっている。それでもなお、ギャル文化は世界的な規模で若者の文化に深い足跡を残した。その背景には、ギャルの社会的、経済的な影響力が大きくなったことがあると言えるだろう。現在は、ギャルについての言及が少なくなっているが、ギャル業界がもう終わったとは言えないだろう。

本稿では、ギャル文化の存在と起源、ギャルの行動様式、衰退の原因、社会に反対された原因、流行の原因、一般日本人の価値観、その影響などを探りたいと思う。そのために、様々な文献、記事、調査報告書からギャル文化の歴史、国内外における流行、ギャルの生活、ギャルの価値観、社会の評価などについての情報を集めて考察を行う。

## 1. ギャル文化の歴史

ここでは、ギャルファッションの歴史とそのファッションを文化とした集団の歴史に分けて考察する。

### 1. 1. イベサーの起源

高度経済成長期から70年代にかけて、若者人口の増加やアメリカを中心とした若者文化の輸入の影響もあり、ユース・ストリート・カルチャー集団、例えば、暴走族、日本版ヒッピー、ストリートダンサーの族などが一気に拡大して、社会を構成した。若者の反抗という匂いが多少した時代だと言われていた。大学生の活動によって、1978年に経済力を持ち始めたその学生達をターゲットにしていたディスコ業界が大ブームとなって、若者の多くもディスコに移行した。それによって、1980年代の初め、「R・T・P・C」<sup>1</sup>の集団が起こった。やがて、各大学のサークルのリーダー達は大学の枠を越えたグルー

---

<sup>1</sup>「R・T・P・C」= (六本木・トップ・プレイヤーズ・コネクション、都心にある私立大学のディスコのフリーパスを持つ学生達を中心であった集団のこと。

ブを結成した。大学内のイベント系サークルが母体である「インカレ」<sup>2</sup>集団の誕生である。学生達が主催者となってディスコで多数のイベントが行われた。80年代になると、にわかに日本はバブル景気に浮かれるようになる。ディスコに来る客層も様々に拡大し、文化や流行の発信地として知られていくようになった。85年頃に大学のスポーツサークル連合「W・T・P・F」<sup>3</sup>が誕生した後、インカレ団体「STROPS」へと展開し、雑誌やテレビで大々的に紹介されるほどの大規模な合同パーティーを企画して成功させた。その成功により、学生イベントの経済効果が認められ、企業と学生団体の合同型イベントが増加し、資生堂などの協賛スポンサーが付くようになった。インカレの大規模化の影響で、高校生達も自分達でパーティーを主にディスコで開催するようになって、「チーマー」と自称・他称される集団となった。彼らは若者のファッション・リーダーでもあったため、同世代の高校生の間ではカリスマ的な存在として見られていた。しかし、そのチーマーパーティーでの乱闘騒ぎや、他のチームとの抗争を好む武闘派が現れたことによって一般人をも巻き込んだ暴力事件が発生して、マスコミでネガティブに取り上げられ、集客数は減少の一途をたどることになった。95年まではチームの数自体が増加したが、その後徐々に解散に追い込まれた。チームの衰退と同時に、93年頃、元チーマーやその関係者によって従来の大学生中心のインカレ系サークルを加えてフリーターや社会人のサークルやチーマー系サークルが出現し、大学生サークルとの融合で新たにサークルを結成するようになった。パーティーの主催者は殆どが高校生だったので高校生のサークル化の時代だと言われた。しかし、社会的な経歴に傷がつくことを恐れてチーマーという名称をやめ、代わりにイベサー（イベント・サークル）と自称するようになった。これがイベサーの起源である。

## 1. 2. イベサーの歴史

1990年代前半のバブル崩壊以降に高校生の運動が起こり、高校生サークルのチーマーからイベサーへと変化していった。チーマーの先輩と暴走族の先輩達に挨拶することでトラブルの防止が行われ、活動も丁寧な運営を心がけるといふ集団になった。これらは、高校生によるイベサーの原型と呼ばれた。イベサーは、活動拠点を大学に置き普通の学生を対象とする「イベント系サークル」とセンター街に活動拠点を置きギャルやギャル男を対象とする「イベサー」（略語）の二つに分けられる。ギャルファッションをグループのアイデンティティーとするイベサーは渋谷を中心として大規模なギャル社会を結成した。また、ギャルも含む「族」自体が消費社会におけるマーケティングの対象となったことで、ギャル文化の影響力が大規模になり、より拡大していった。しかし、2000年代以降から、暴力団と結び付きフロント企業<sup>4</sup>を立ち上げたことなどにより、イベサーのネガティ

<sup>2</sup> 「インカレ」＝インターカレッジの略

<sup>3</sup> 「W・T・P・F」＝早稲田・トッププレイヤーズ・フェデレーション

<sup>4</sup> フロント企業は暴力団を背景とした企業活動を行い、その利益を暴力団に提供している企業またはその経営者

ブなイメージがよく取り上げられるようになったことで集客力が低下し、イベントのクラブの小規模化が進んだ。

### 1. 3. ギャルファッションの主な系統の歴史

若者の運動と同時にギャルファッションにも変化が見られた。

若者文化が生まれる以前は、若い女性であれば母親と同様のスタイルの服を身にまとった。それは同質的なもので、大人のエレガンスの基準、規律に従ったものであった。このようなファッションは、例えば、ディオール (Dior) などのオートクチュール<sup>5</sup>であった。

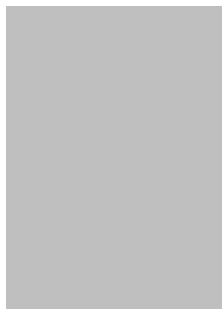
1970年代からアメリカを中心とした若者文化の輸入の影響で若者のファッションの変革が強い時代になり、よりファッションの幅や自由性が広がっていく期間となった。



ボディコン

<http://girlschannel.net/topics/110150/>

1980年代のバブル絶頂期には「ボディコン」と呼ばれる非常にタイトでボディラインを強調したワンピース、あるいはスーツに身を包んだ女性が登場した。このスタイルは、非常に目立つイメージからマスコミでよく取り上げられた。



安室奈美

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AE%E3%83%A3%E3%83%AB#/media/File:Namie\\_Amuro\\_MAA.JPG](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AE%E3%83%A3%E3%83%AB#/media/File:Namie_Amuro_MAA.JPG)

1990年代に入ってから、カジュアルなファッションが注目されるようになった。また、安室奈美恵がギャルの初代カリスマとして登場してからは、10代の女性の間で、彼女の装いに影響される者が続出した。安室に心酔した彼女らのことはアムラー

---

<sup>5</sup>オートクチュール (フランス語: haute couture) とは、パリ・クチュール組合 (La Chambre Syndicale de la Couture Parisienne、ラ・シャンブル・サンディカル・ド・ラ・クチュール・パリジェンヌ、通称サンディカ) 加盟店で注文により縫製されるオーダーメイド一点物の高級服やその店のこと。

と呼ばれた。ミニスカート、厚底ブーツ、ロングヘア、茶髪、細眉、浅黒い肌というスタイルは瞬く間に流行した。また、70年代風のサーファーファッション、LAファッションなどの回帰的なファッションも流行を示した。特に大きな変化としては、それまでの日本人にはあまり馴染みがなかった茶髪に対する抵抗がなくなったことが挙げられる。



#### コギャル

<http://matome.naver.jp/odai/2133216071261986901>

1990年代前半のイベサーが結成された期間の前後に、上記のアムラーの発生とほぼ同時期に、コギャルという言葉が流行語となった。これはフライデーなどの媒体にも記述が見られるが、本格的にコギャルという言葉が使われ出したのは1996年頃からである。ミニスカート、厚底ブーツ、ルーズソックス、ロングヘアに茶髪、剃り落とした後に描いた様な極端な細眉、日焼けサロンなどで焼いた浅黒い肌という特徴がイベサーの初代のスタイル、集団の主なアイデンティティとされた。



#### ガングロ

<http://weekly.ascii.jp/elem/000/000/340/340703/>

1997年代後半頃から「ガンガン黒い」に由来したガングロという言葉が登場するようになった。ガングロギャルの特徴は、黒人用ファンデーションや日焼けによって極端に肌を黒くしていたことにあった。コギャルも肌を焼いたが、さらに黒くなったのがガング

ロだったのである。学生だけではなく、社会人まで含めたファッションの対象である。

1998年頃からエスカレートしてガングロ化していく。メイクにはラメや白いアイシャドー、白い口紅を用い、髪の毛は金髪や銀髪にし、素顔が分からないほどになった。服装は当時流行っていたパレオやキャミソールに10センチ以上ある厚底のブーツやサンダルという出で立ちであった。



ヤマンバ・ゴングロ

[http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1091976165](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1091976165)

1999年からは、さらに黒い「ゴングロ」という言葉が登場し、肌がブリの照り焼きのように黒くなった。『週刊SPA!』は「十代山姥ギャルの恐るべき美意識」という特集を組み、山姥のようであったために、ヤマンバという呼び名がゴングロの代わりに流行っていき、2000年ごろがピークとなった。



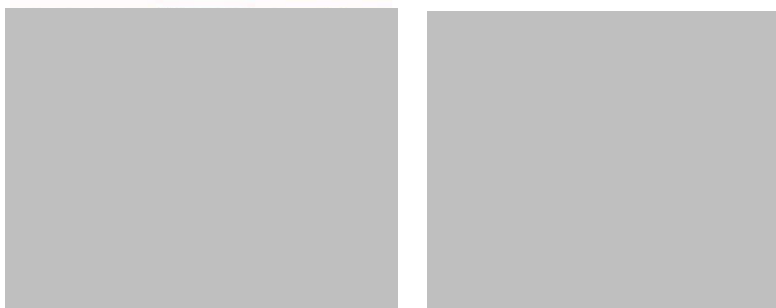
マンバ

<http://kokoronohitorigoto.ti-da.net/e6716641.html>

2003年から2012年まで継続しているヤマンバの進化系ギャルファッション：白い口紅やアイラインはそのまま使われるが、アイラインに関しては特に目の周りに白が濃く幅広に引かれ、目自体は縁にマスカラや黒いアイライナーで色濃くラインが描かれた。唇に白系のグロスなどを塗るなどといった化粧をしており、ファッションではパンツルックよりも極端に短いミニスカートを中心にコーディネートされ、原色系や派手な柄ものといったものでまとめているのが特徴である。また、バービー人形のようなマンバスタイルをバンバ、セレブ系のファッションを取り入れたマンバをセレンバと呼ぶ。

安室奈美恵が産休のためしばらく芸能界から離れることとなった後に登場したのが浜崎あゆみである。彼女が2000年頃よりブレイクし始めてくると、第2のギャルのカリスマとなった。浜崎のような白い肌にブリーチによって金髪に近い色にした髪は年頃の近い女性に大きく支持された。このため、2000年以降に登場するギャルは、

「白ギャル」と呼ばれる系統が次第に勢力を増していくことになる。この時期はギャルファッションの転換期と見られる。



白ギャル

<http://spotlight-media.jp/article/13174766846374728>

<http://bookcoupons.xyz/%E6%B5%9C%E5%B4%8E%E3%81%82%E3%82%86%E3%81%BF%E3%81%AE%E9%AB%AA%E5%9E%8B/>



キャバ嬢・age嬢

<http://gourmet-toyama.net/shop.php?recid=181999>

ファッション雑誌『小悪魔 ageha』が創刊された2006年からはアゲ嬢系ギャルファッションが登場した。イベサー人の仕事の一つがキャバクラなどの夜の仕事である。その仕事に従事するギャル、つまりキャバ嬢をそのままモデルとして起用するという業界初の試みを行なった雑誌では、誌面に登場する一般モデルを「age嬢」と呼ぶ。『小悪魔 ageha』が創刊されると、そのage嬢のセルフメイクや私服は、女子高生以下の若い年齢層の女性を中心に好評を博した。ヘアスタイルに関しては基本が盛り髪、巻き髪となり、メイクは目力を強調したものであるが、元のギャルとの根本的な違いはそのメイク技術が非常に洗練されている点であり、また、服飾よりもメイクとヘアスタイルに特化した「美」そのものを追求した構成であると言われた。又、それまでギャルが行うメイクに対して懐疑的、あるいは敬遠していた層もage嬢のメイクを取り入れるようになり、他のファッションジャンルへ変化を与えた要素も少なからずあった。その他、age嬢がメディアに注目されたことによって、小学生が将来なりたい職業の1位にキャバクラ嬢がランクインするなど世論の変化も見られ、意外なところで社会に影響を与えた。

その他の系統は当時のヨーロッパの最新のファッションを受け入れ、ギャルファッションとミックスして新しい黒かつ白系統となる傾向が多くなると見られたが、2000年代後半からはギャル文化が衰退した。

## 2. 流行

2000年代、当時のイベサーのイベントでは、流れていた楽曲のミックスCD「Campus Samity」（キャンサミ）の合同イベントが販売され、初の全国イベントも行われた。このイベントは十都道府県で開催されただけでなく、旅行会社とタイアップしてフィリピン、台湾、韓国などの外国でも開催された。もう一つの大きなイベントである高校生のD-1・Grand・Prixもその規模を拡大していった。まさに、この頃がイベサーの絶頂期と言えるだろう。ギャル文化が海外で流行したことがきっかけで、海外の人たちに、日本のアニメ、マンガが受け入れられたように、日本のギャルもジャパニーズカルチャーとして受け入れられていった。それは日本の経済からの刺激だと見られた。日本のヤマンバギャルを日本では全く見なくなった頃、海外で出現しているという話があった。東京と地方で流行のスピードに差があるように、日本と海外にもその差は存在していた。2005年にキャンサミは以前のように二回行われた。2006年から2008年にかけて全国十七都道府県にイベサーは存在するようになった。

## 3. ギャル文化に対する社会の反応

これは2種類の反応に分けられる。

先ず挙げられるのは、ギャルの活動に対しての社会から良い評価である。1990年代半ば、イベサーが大ブームの時代には、イベサーは毎年一回合同パーティーを行ったが、社会人などの大人までがパーティーへの参加にかなり興味を持っていた。加えて、ギャルのサークル活動の中ではモデルやタレントがスカウトされ、若者のファッション雑誌がそれを掲載することによって、ギャルファッションが社会の中で大いに評価された。しかし、全てのギャルファッションの系統が良い評価を受けたわけではなく、反社会性の強いヤマンバやマンバのようなファッションは悪い評価を受けた。

反対に、ギャルの行動に対してはしばしばネガティブな評価がなされた。人目を顧慮しないで地べたに座り込んだり、信号が青の時に全裸で踊る、下着あるいは裸で全速力で走り回るなどのような人に迷惑をかける行為や、高校生や中学生などの援助交際、性犯罪などのような奇怪な行動が注目されて、眉をひそめられた。また、ギャルの面接の雑誌によって、例えば、ギャルが電車に乗ってきた時に周りの人に避けられたとか、店の前で座っていたギャルが水をかけられたなどの報告があった。

## 4. 検討

### 4.1. ギャルファッションの存在

ギャルファッションの存在は二つの面から考察できる。

一つは、前述の通り、イベサーの影響で起こり2010年代まで流行っていたもので、2014年のネオ系などに系統を派生してまだ存在していると言われている。それぞれの

スタイルは、前の代の特徴を継承して新しいヨーロッパのファッションとミックスされて少しずつ変わってきた。名称的に言うとギャルファッションであると言えるだろう。

もう一つは、ヤマンバや汚いマンバのような1990年代半ばから2000年代前半までのギャルファッションを見れば、独自性があるスタイルのように見えるかもしれないが、それはギャルファッションの特徴が下の代のギャルに工夫されて、既成の美の基準に戻っていることに気が付く。ギャルファッションの存在は白ギャルの世代からアイデンティティ的には変わっていないとも言える。

## 4.2. ギャルや行動様式

バブル崩壊後、いわゆる日本の戦後経済史において最も厳しい時代に発生したのは行動様式の変化であると考えられる。ギャルとはブランド品に対して拜金的で、非社会性と幼児性を併せ持った若者だと言われる。評価されること、目立つことが大好きで、他の人と似ていることを嫌がる。特に公序良俗に反することや武勇伝を持てることがギャルにとっては大切なことだ。毎日、日焼けサロンで肌を黒く焼き、仲間ウケしかしない盛り化粧をすることなどで、日本の理性的美女のイメージを覆すことを主張している。放課後の街でたむろし、他の視線を顧慮しないで地べたで座り込み、ケータイをやる。現代「自分らしさ」という言葉が非常に流行している。その要因は個人主義と利己主義の考え方が普及していることにあると見なす人が多い。日本人は団体の中では目立つことを避けていたが、時代が変わるにつれて若者は自分探しの流行を大切にするようになったと考えられる。

不景気の影響で「自分」や「お金」を重視している家族から関心がもらえないほど家族の雰囲気も悪くなった。利己主義の考え方が浸透すると同時に、人に迷惑をかけて、格好を目立つようにして家族の外から関心を集めるようになったようだ。

しかし、「自分探し」とは時間と社会の流れの中で個性を探し続けていくことであるが、結局は、自分の矛盾を隠し、ただ他の人と同じようにしようとする望みに過ぎない。

## 4.3. ギャルの価値観

バブル経済を背景に育ってきたギャルは、将来に対する希望や楽観的に観測を持つことが難しかったので、時間が経っても何も良くならないという考え方を持っていると言われる。それで将来を持つのではなく「今」したいことをして、自分のアイデンティティを表すこと、バブル崩壊後から自分の考えを優先する価値観を持つ世代であるといっても構わないであろう。また、ギャルは仲間の感想が最も大切なものだと考えている。ギャル界にはウチらという（内論の仲間）価値観があり、それはある流行やファッションを見ると、仲間に見せ、競い合うようなものになったことに起因すると言える。すなわち、内らがいけるかどうかについての仲間内での評価を何よりも優先し、内論以外の親、世間などには目を向けないのである。

前述の通り、ギャルやイベサー業界で趣味としてよく大規模な活動を集団で行ったり、社会構造を作ったりして、若者の時から社会問題や自分の人生問題の処理に苦労しながら



生活してきた人がかなりいる。ギャル社会やイベサーは彼らにとって若いうちにしかできない貴重な経験ができるもう一つの学校である。逆に、より成り上がりたい、逃げてきたい人もいるそうだ。それを見ると、自己中心的なギャルは社会背景を背負いつつ活路を探している舞子のように見える。

#### 4.4. ギャル社会の起源

上記の通り、日本経済の不景気の影響で多くの家族が長時間働くようになって、家族関係が希薄になり、自分に問題が起こっても家族から関心をもらえなくなったことが一つ目の原因である。

二つ目は、日本の不景気が続く中で育った世代は、将来に対する希望や楽観的な観測を持つことが難しかったので、将来をもつのではなく「今」したいことをして、自分のアイデンティティーを表すようになり、自分の考えを優先する価値観を持つ時代になったことが挙げられる。

三つ目は、衰退した大学生のサークル文化を、目立ちたい若者達が一緒に社会に影響力が強い集団に作り上げて、家族から関心をもらえないとか、安心を感じたいとか、目立ちたい子達などがメンバーになり、ファッションのスタイルをサークルの皆で決めて、次の世代に継承するようになったことが挙げられる。

#### 4.5. 社会に批判された原因

ギャルの行動は、よく社会から批判される。

社会の公序良俗に反したり、しばしば人に迷惑をかけることでネガティブなイメージを持たれているのである。ギャルの生活に関する調査によって、当時のイベサー社会での怪しい仕事、薬の問題、援助交際、目立つ行動などのようなイメージがマスコミやテレビで広まったことで、実際のギャルのことを知らなくても、ワルっぽい子達だと認識する人もいる。

批判されるもう一つの原因は、前述したように、ギャルがウチらという（内論の仲間）価値観を持っていることである。内らがいけるかどうかについての仲間内での

評価を何よりも優先し、内論以外の親、世間などに目を向けないという独自の価値観を持っているために、ギャル以外の者から見ると、ギャルは理解しがたい行動やファッションをすると感じる。

#### 4.6. ギャルファッションの流行の原因

バブル崩壊後、衣服にお金を月に数万かけるギャルやイベサー人達が消費社会のマーケティング対象となり、常にトレンドを紹介したいマスコミや広告代理店の思惑により、誘導的に形成されていくようになったと考えられる。また、それによって、イベサーはさらに流行っていくことになった。つまり経済を刺激するためにイベサーのファッション、例えば、ギャルやヤンキーなどのファッションも広まっていったと言えるのである。

#### 4.7. ギャルファッションの衰退の原因

ギャル文化の発展やイベサーの成長において、ギャル雑誌は大きな役割を果たしてきたが、その雑誌そのものが、1990年代後半から低落の傾向が止まらない状況にある。インターネット、特にブロードバンドが普及した2000年代になると雑誌は激しく落ち込み、その中でも若者ファッション誌はまだ堅調なジャンルだったと言えるが、2000年代後半からは目に見えて退潮が始まった。その大きな要因はインターネットやSNSの普及であると思われる。目立とうと思えばネットでいくらでも目立てるので、今の時代はストリートに集まる「ギャザリング」から、ネットによる「シェアリング」に変わってしまった。ギャルファッションの拡大に対するメディアの影響力が衰えるきっかけになったと言える。

さらに、以前は悪いことをしているように見えるというのはサー一人にとって重要なことで馬鹿をやったり、悪いことをしている写真などを仲間が集まる狭いコミュニティだけで見せて自慢するということが行われていたが、現在では悪いことなどの証拠がネットで一気に拡散されて叩かれることにつながって、将来的なリスクとなってしまう。それで、「悪いこと」は隠す傾向にあり、ギャル文化の流れに影響を持つサー人（イベント・サークルの人）の活動を変えたのである。

#### 4.8. ギャルに対する一般日本人の価値観

ギャルについて挙げられる評価は、殆どが格好や、社会的な迷惑についてである。格好について言えば、一般社会の美意識は肌が白いほど美しいという伝統的な美女のイメージを持っている。現在もその理想像を持ち続け、様々な化粧品や美白材を使っている日本女性が非常に多い。また、白は光や清潔のシンボルとされ、逆に黒は悪さのシンボルとされる。それで、ギャルを見る時、悪しきを見ているようだという人もいる。ギャル文化は現代日本の独特の現象であり、日本のファッションを変革した集団であると見られて、「ジャパニーズカルチャー」と受け取られた。

ギャルの迷惑的な行動は、悪い評価を受けている。例えば、一般人をも巻き込んで武勇伝を起こすように暴力を振るう人達だ、他の人をいじめることを好む人達だとしばしば見なされる。そういう評価がマスコミで取り上げられると、ギャル達はさらに注目されるようになった。ギャルのイベントに対しては良いフィードバックを受けて参加者が多かったのに、いじめられたメンバーを守りたいだけで悪いことを起こしたあるケツモチ<sup>6</sup>の場合などすぐに社会に反対されてイベントの流れが衰退した。しかし、裸で交差点で踊るなど馬鹿をすることや、危ないことをする時は抵抗の影響力があまりない。つまり、人に迷惑をかけない限りしたいことをしてよい。

---

<sup>6</sup>ケツモチとは、他のイベサーや外部の人間（イベントの客など）との間にトラブルが発生した際、問題の解決にあたる人間のことである。

## 4.9. 社会的影響

社会からの抵抗力によってギャル達の人生には大きな影響があった。就職活動などにおいてイベサーの運営経験をアピールすることが多かったが、事件を機に、イベサーに所属していたこと自体を隠すようになる。学生時代はイベサーに打ち込んだことが、一流企業に就職したいメンバーのモチベーションが一気に下がる原因となった場合もある。また、マスメディアにイベサーと事件を同一視し、バッシングする記事が掲載されたことで、大学当局に呼び出された者や、大学の学生に行動をインターネット掲示板に書き込まれた人もいた。それによって、一般企業への就職をあきらめ、汚い仕事に走るメンバーも多くなった。メディアの力によって無罪の人まで直接影響を受けたということだ。

## 5. 終わりに

ギャルとは派手な外見をもつ若者達だと見られるかもしれない。人間が未来を心配し、回りの人に関心をもらえない不景気の時代に若者は新しい文化を作り、自由の幅を変革した。それを通してただ自分の大切さを求めている。しかし、社会からの反応にはその若者達の未来と名誉にひどい影響があったようだ。今回の調査によって、ギャルは問題を起こし、社会に反対する人間だというステレオタイプな考え方で見られることで、夢の職業に進むために自分の過去を隠そうとするギャルが少なくないことや、水をかけられるなどいじめられて名誉を傷つけられるギャルもいることを発見し、日本社会の基準を破ろうとする人に対する影響が分かった。また、ギャルの社会構造や価値観をさらに詳しく学ぶことが出来た。これからも、様々な角度からギャル文化の変化の傾向を調べたいと思っている。

## 参考文献

荒井悠介、『ギャルとギャル男の文化人類学』、株式会社新潮社、2009

カザフスタン、「ギャル文化」、教養学部、<http://www.qmss.jp/i-student/i-student/utokyo/work3/3-10.pdf>

消費研究チーム(2014)、「かわいいマンバ」、JMR 生活総合研究所、

<http://www.jmrlsi.co.jp/concept/report/consumption/manba.html>

嵩岡陽子(2009) 「「ギャル文化」に見る新しい特性」 S&E 総合研究所、

[http://www.mitsui-fudosan.co.jp/s-e/infomation/pdf/report\\_091221.pdf](http://www.mitsui-fudosan.co.jp/s-e/infomation/pdf/report_091221.pdf)

松谷創一郎、『ギャルと不思議ちゃん論』、株式会社原書房、第1刷 2012、第2刷 2013

松谷創一郎(2014)、「ギャルはこのまま終わるのか?—相次ぐギャル雑誌の休刊とギャルの激減」、<http://bylines.news.yahoo.co.jp/soichiromatsutani/20141220-00041676/>

Aliyaapon Jiratanatiteenun, Chiyomi Mizutani, Saori Kitaguchi, Tetsuya Sato, Kanji

Kajiwara (2012), The Transformation of Japanese Street Fashion between 2006 and

2011, Scientific Research, [http://file.scirp.org/pdf/AASoci20120400007\\_83494934.pdf](http://file.scirp.org/pdf/AASoci20120400007_83494934.pdf)

Angelaka Eva, The Japanese Gyaru :Popular Culture, Globalization and the Reflection of a Trend, Media

and Popular Culture in Asia, Final Paper,

[http://www.academia.edu/6375738/The\\_Japanese\\_Gyaru\\_Popular\\_Culture\\_Globalization\\_and\\_the\\_Reflection\\_of\\_a\\_Trend](http://www.academia.edu/6375738/The_Japanese_Gyaru_Popular_Culture_Globalization_and_the_Reflection_of_a_Trend)

Does The End Of Egg Mean The End Of “gyaru”? ,Flamingo, <http://flamingogroup.com/does-the-end-of-egg-mean-the-end-of-gyaru-2>

Yuniya Kawamura(2011),Japanese Teens as Producers of Street Fashion, Fashion Institute of Technology, New York,

[http://elearning.unimib.it/pluginfile.php/247890/mod\\_resource/content/1/Kawamura\\_2006\\_japanese%20teens%20as%20producers%20of%20street%20fashion.pdf](http://elearning.unimib.it/pluginfile.php/247890/mod_resource/content/1/Kawamura_2006_japanese%20teens%20as%20producers%20of%20street%20fashion.pdf)

「ギャル」

[https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AE%E3%83%A3%E3%83%AB#1970.E5.B9.B4.E4.BB.A3\\_-](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AE%E3%83%A3%E3%83%AB#1970.E5.B9.B4.E4.BB.A3_-)